

高木仁三郎市民科学基金 助成研究/研修 完了報告書

提出日：2007年6月11日

1. 氏名・グループ名及び研究テーマ

| | |
|-------------|--|
| 氏名(グループ名) | 長島の自然を守る会 |
| 連絡先・所属など | 山口県防府市下右田387-14 Midori.t@crocus.ocn.ne.jp |
| 調査研究・研修のテーマ | 上関原発詳細調査による自然環境・生態系へのダメージの検証 |

2. 調査研究・研修結果の概要

中国電力の原子炉設置許可のための詳細調査による自然破壊が日々刻々と進む中、詳細調査を中止に至らせることができなかったのは非常に残念である。しかし、詳細調査は2006年度終了予定であったのが、5月30日現在陸域29本、海域24本（予定は海陸各60本）と全体の半分しか終了していない。これは、地元祝島を中心とする実力阻止闘争や私たちの告発の成果とも言える。

2006年度の調査研究の主な成果は

国の天然記念物であるカラスバトの鳴き声の録音に成功し、テレビで報道されたり、瀬戸内海では貴重なスギモク群落を発見するなど、自然環境・生態系の新たな解明をして、事業者や行政を追及したこと

ヤシマイシン近似種調査の不備追及で事業者に1号機炉心部分での生息確認を公表せざるを得なくさせたこと

湧水・地質など新たな研究チームの参加で、現在進行している詳細調査によるダメージを検証する新しい分野が得られ、また詳細調査のデータ改ざんを監視する役割も果たせるようになったこと
神社地が入会地として利用されてきたことを植生調査によって明らかにし、弁護士が物的証拠として提出するデータを提供したこと

生態学会地区会報No.60の発刊・学会発表・シンポジウム開催や原水禁‘ひろば’・アースデイへの出展などで上関原発の現状と詳細調査による自然破壊の告発の普及に寄与したこと
などである。

一方、詳細調査による現地の自然環境・生態系の破壊は日々刻々と進んでおり、また、詳細調査終了のめどが立った時点で中国電力は埋め立て許可申請に入ると予想され、予断は許さない。

そんな折、あらたな鋼製櫓を設置した海域で、2007年6月10日、会員の現地調査でクサフグの産卵シーンの撮影に成功した。その影響か中国電力は6月12日に予定していた2機めの鋼製櫓設置を急遽延期している。山口県では光市室積海岸が県の天然記念物に指定されており、産卵地が海域ボーリング調査予定地の真っ只中であることから、緊急に中国電力・山口県に海域ボーリング調査中止を申し入れる。

2007年度は地元祝島と連携したあらたな局面での闘いを計画しており、そのため基礎データの収集・集約作業を行う。

あらたな知見による詳細調査のダメージを検証し、告発・中止への圧力をかける。

海水汚濁度・自然放射線測定など、埋め立てという最悪の事態も予測し、すでに埋め立て予定地周辺の基礎データを収集しているが、今後もより広範囲に予備調査を行う。

ビデオ・パネル写真に続く広範な普及活動に活用できる書籍の刊行などを準備中である。

3. 調査研究・研修の経過

1. 生物及び環境調査

| 日 時 | 名 称 | 内 容 | 招聘した研究者名等 | 一般参加者数 |
|----------------------------|-------------------------|--|---|--------|
| '06.4.8 ~9. | ● 海水汚濁 度調査 | ● 海水汚濁度 | ● 湯浅一郎 | ● 8名 |
| '06.4.29 ~30. | ● 春季自然 の学校 (No.1) | ● 潮間帯定量 ● 鳥類 ● 哺乳類(トラップ) ● 植物 | ● 向井宏 ● 山下博由 ● 金井塚務 ● 安溪遊地 ● 安溪貴子 ● 花輪伸一 ● 野間直彦 ● 岩崎敬二 | ● 31名 |
| '06.5.13. ~14 | ● 春季自然 の学校 (No.2) | ● 鳥類 ● 神社地毎木調査 | ● 加藤真 ● 野間直彦 ● 長谷川直彦 | ● 31名 |
| '06.7.22. ~23. | ● 夏季調査 (No.1) | ● 神社地毎木調査 | ● 加藤真 ● 野間直彦 | ● 8名 |
| '06.9.10. | ● 夏季調査 (No.2) | ● スギモク定量調査 | | ● 7名 |
| '06.9.22 ~23. | ● 湧水調査 | ● 海底湧水調査 | ● 菊池亜希良 | ● 8名 |
| '06.10.8 ~9. | ● 秋季自然 の学校 (No.1) | ● 水質調査 ● カラスバト調査 | ● 菊池亜希良 | ● 9名 |
| '06.10.21 ~22 | ● カラスバ ト調査 | ● カラスバトの鳴き声録音 ● フクロウ・オオコノハズ ク映像撮影 | | ● 4名 |
| '06.11.3 ~5 | ● 秋季自然 の学校 (No.2) | ● 鳥類調査 ● スギモク調査 ● 湧水調査 ● 地層調査 ● 植生調査 | ● 梶畑哲二 ● 新井章吾 ● 菊池亜希良 ● 小泉武栄 ● 安溪貴子 ● 安溪遊地 | ● 16名 |
| '06.12.31 ~ '07.1.1. | ● 冬季調査 (No.1) | ● 鳥類 ● 植物 | | ● 3名 |
| '07.1.6 ~7 | ● 冬季調査 (No.2) | ● カクレミノ | ● 加藤真 ● 野間直彦 ● 安溪遊地 ● 安溪貴子 | ● 13名 |
| '07.2.7 ~9. | ● コモンズ 研究調査 | ● 神社地裁判対象地踏査 ● 共有地裁判対象地踏査 ● 漁業補償裁判聞き取り ● 自然環境調査 | ● 室田武 ● 泉留衣 | ● 8名 |
| '07.3.18. | ● 腐生ラン 調査 | ● 生育地の特定 | | ● 3名 |

4. 調査研究・研修の成果

中国電力の原子炉設置許可のための詳細調査による自然破壊が日々刻々と進む中、詳細調査を中止に至らせることができなかったのは非常に残念である。しかし、環境面からの追及の手を緩めず、中国電力に種種の追加調査をさせ、ホームページ上にも自然環境調査結果を掲載せざるを得ないところまで追い込んだ。こうした成果の蓄積で現地祝島との連携強化・運動面での機能的な分担が進み、あらたな局面が開けつつあることは今後の戦いに展望を与えるものである。

また、ビデオをはじめ新たな媒体を作成し、全国でのシンポジウム開催など運動の普及面で新たな拡がりを得たことは会の今後の活動にとり、有意義である。

2006年度の調査研究の主な成果は以下の点に集約される。

1. 現地の貴重な自然環境・生態系の新たな解明による事業者や行政の追及

国の天然記念物であるカラスバトの鳴き声の録音に成功し、テレビ局に報道させたり、瀬戸内海では貴重なスギモク群落を発見するなど、長島の自然環境・生態系の新たな解明をし、中国電力や行政に詳細調査の即時中止を迫った。

2. ヤシマイシン近似種調査の不備追及で事業者が生息確認を公表

環境アセスメントで通産大臣（当時）から追加調査を指示されているヤシマイシン近似種につき、長島を守る会調査や生態学会調査では数度にわたり生貝や卵塊を確認しているにもかかわらず、中国電力の調査では1個体も確認できていないことを追及し続けてきた。2006年11月の中国電力に対する申入れの席上、事業者が7月に1号機炉心付近で生貝を確認していたことを公表した。現在、保全措置につき、追及中である。

3. 湧水・地質など新たな側面からの調査研究の展開

湧水・地質など新たな研究チームの参加で、現地の貴重な生態系をより多面的に調査できた。その結果、長島田ノ浦の岩盤は固いが、壊れやすく水の浸透度が高いこと、豊富な広葉樹林から供給された地下水が湧水となって湾内に還流し、希少な生物層の生息基盤となっていることが解明されつつある。このことは、現在進行している詳細調査によるダメージを告発するあらたな側面になると共に、詳細調査のデータ改ざんを監視する役割も果たすものと考えている。

4. 神社地裁判での植生調査からの物的証拠提出

神社地が入会地として利用されてきたことを植生調査によって明らかにし、弁護団が物的証拠として提出するデータを提供した。

5. 生態学会地区会報No.60の発刊・学会発表・シンポジウム開催や原水禁‘ひろば’・アースデイへの出展などで上関原発の現状と詳細調査による自然破壊の告発の普及に寄与した。

6. ビデオやパネル写真・ポストカードなど長島の自然が直面している危機を広く宣伝する媒体作成ができた。

5. 対外的な発表実績

1. シンポジウムやイベントの開催

| 日 時 | 名 称 | 内 容 | 招聘した研究者名等 | 一般参加者数 |
|------------|------------------------|--|--|--------|
| '06.6.11. | ● スナメリウォッチング & ビワ狩りツアー | ● スナメリウォッチング ● 祝島へのビワ狩り & 交流 | | ● 25名 |
| '06.6.25 | ● 広島シンポジウム | ● DVD 上映 ‘瀬戸内の原風景長島’ ● 詳細調査のダメージ告発 | ● 湯浅一郎 ● 金井塚務 ● 佐藤正典 ● 山下博由 ● 野間直彦 ● 安溪遊地 | ● 55名 |
| '06.8.5 | ● 原水禁世界大会 | ● 上関原発計画の現状報告 | ● | ● 60名 |
| '06.10.14. | ● 東京シンポジウム | ● DVD 上映 ‘瀬戸内の原風景長島’ ● 詳細調査のダメージ告発 | ● 野間直彦 ● 花輪伸一 ● 長谷川直彦 ● 粕谷俊雄 ● 加藤真 | ● 65名 |
| '06.11.25. | ● 下関シンポジウム | ● DVD 上映 ‘瀬戸内の原風景長島’ ● 詳細調査のダメージ告発 | ● 野間直彦 ● 加藤真 ● 長谷川直彦 ● 新井章吾 | ● 45名 |
| '07.11.26. | ● 田布施シンポジウム | ● DVD 上映 ‘瀬戸内の原風景長島’ ● 詳細調査のダメージ告発 | ● 野間直彦 ● 長谷川直彦 ● 金井塚務 ● 新井章吾 | ● 60名 |
| '07.1.8. | ● 里山再生に向け | ● カクレミノによる金漆復活の試み ● 里山再生のための聞き取り調査 | ● 野間直彦 ● 加藤真 ● 安溪遊地 ● 安溪貴子 | ● 25名 |
| '07.3.10. | ● 京都シンポジウム | ● DVD 上映 ‘瀬戸内の原風景長島’ ● 詳細調査のダメージ告発 | ● 加藤真 ● 野間直彦 ● 山下博由 ● 粕谷俊雄 ● 長谷川直彦 | ● 50名 |
| '07.3.11. | ● 岡山シンポジウム | ● DVD 上映 ‘瀬戸内の原風景長島’ ● 詳細調査のダメージ告発 | ● 加藤真 ● 野間直彦 ● 山下博由 ● 粕谷俊雄 ● 長谷川直彦 | ● 30名 |

2. 学会発表等

| 日 時 | 名 称 | 内 容 |
|------------|--------------|---------------|
| '06.9.29. | ● ベントス学会自由集会 | ● 上関原発計画の現状報告 |
| '07.3.20. | ● 日本生態学会分科会 | ● 大規模開発につける薬 |
| '06.12.13. | ● 県立大非常勤講師 | ● 長島と上関原発 |

3. 寄稿原稿

| 年 月 | 掲載誌名 | 表 題 |
|---------|-------------|----------------------|
| '06. 9. | 反原発新聞 | 詳細調査の強行による自然破壊の告発 |
| '07. 2. | 環瀬戸トラストニュース | 詳細調査による自然破壊を阻止する闘い |
| '07. 2. | 週刊「新社会」 | 長島の貴重な自然環境と詳細調査のダメージ |
| '07. 2. | 中国五県反原発共闘 | 詳細調査の強行とダメージの告発 |

4. 申入れ

| 月 日 | 申し入れ先 | 内 容 | 回 答 |
|------------|------------------|--|--|
| '06.4.10. | ● 山口県 | ● 環境監視の強化(海底浮泥堆積 etc.) | ● 監視を継続する |
| '06.10.13. | ● 環境省 ● 経済産業省 | ● カラスバト・オオコノハズク etc.保全要求 ● スギモク群落の保全要求 ● 詳細調査中止 | ● 事業者伝える ● スギモクは情報提供と受け止める |
| '06.10.23. | ● 山口県 | ● カラスバトの保全要求 ● スギモク群落の保全要求 ● 詳細調査中止 | ● カラスバトについては事業者が調査中 ● スギモクは情報提供と受け止める |
| '06.11.27. | ● 山口県 | ● 詳細調査中止 ● ヤシマイシン近似種調査不備追及 ● 会が実施した地盤調査に基づく脆弱性の告発と詳細調査によって損なわれる環境負荷と安全性を追及 | ● ヤシマイシン近似種を事業者が1号機炉心付近で確認 |
| '06.12.5. | ● 山口県・中電への抗議声明 | ● ヤシマイシン近似種の保全追及 ● スギモクの瀬戸内海における希少性を公表 | |
| '06.12.22. | ● 山口県 | ● ヤシマイシン近似種の保全について事業者への指導 ● 詳細調査中止 | ● 事業者が適切な措置を講ずる |
| '07.1.29. | ● 環境省 | ● ヤシマイシン近似種の保全について事業者への指導 ● 詳細調査中止 | ● 事業者伝える |
| '07.3.5. | ● 中国電力 | ● カラスバトの調査&保護要望 ● アキザキヤツシロランの保全について伐採即時中止要望 ● 詳細調査(特に陸域ボーリング)即時中止 | ● アキザキヤツシロランは花の時期に確認 ● ボーリング調査は続行 |
| '07.3.12. | ● 山口県 | ● アキザキヤツシロランの保全について伐採即時中止要望 ● カラスバトの調査&保護要望 ● 詳細調査中止 | ● 事業者が適切な措置を講ずる ● カラスバトは長島では短期滞在 |

5. ビデオ・ポストカード・パネル写真の作成

ビデオ「瀬戸内の原風景 長島」の完成

現地の自然環境・生態系の貴重さをビジュアルな形で伝えると共に、詳細調査による環境破壊の進行を告発するため、会の発足以降、撮りためて来た映像をビデオに集大成した。シンポジウムや各種集会などで上映し、多くの反響を呼んでいる。

ポストカードの作成

アサギマダラやジュウニヒトエなど生物の写真と田ノ浦の風景を組み合わせ、上関原発の中止を間接的に訴えるポストカードを作成。

パネル写真の作成

ビデオという動画媒体と組み合わせる形で25枚セットのパネル写真を作成し、現地の自然環境・生態系の貴重さと上関原発の中止を訴えている。東京・兵庫・山口のアースデイや宮城などでも展示が予定されている。

6. 今後の展望

2006年度の調査研究による新たな知見で、詳細調査の中止に追い込みことは出来なかったが、詳細調査は2006年度末終了予定であったのが、5月30日現在陸域29本、海域24本（予定は海陸各60本）と全体の半分しか終了していない。これは、地元祝島を中心とする実力阻止闘争や私たちの告発の成果とも言える。中国電力は工事の遅れを取り戻すため、海域調査に日本で最大級のボーリング台船など4機もの台船を投入するなど工事の遅れを取り戻すのに躍起であり、戦いは熾烈さを極めていく。

そんな折、あらたな鋼製櫓を設置した海域で、2007年6月10日の会員の現地調査でクサフグの産卵シーンの撮影に成功した。その影響か中国電力は6月12日に予定していた2機めの鋼製櫓設置を急遽延期している。山口県では光市室積海岸が県の天然記念物に指定されており、産卵地が海域ボーリング調査予定地の真っ只中であることから、緊急に中国電力・山口県に海域ボーリング調査中止を申し入れる。

一方、詳細調査による現地の自然環境・生態系の破壊は日々刻々と進んでおり、また、詳細調査終了のめどが立った時点で中国電力は埋め立て許可申請に入ると予想され、予断は許さない。

2007年度は地元祝島と連携したあらたな局面での闘いを計画している。

こうした観点に立って、以下の調査研究及び活用を行う予定である。

1. あらたな知見による詳細調査の告発・中止への圧力をかける。
2. 埋め立てという最悪の事態も予測した予備調査などを行う。

海水汚濁度・自然放射線測定など、すでに埋め立て予定地周辺の基礎データを収集しているが、今後もより広範囲に予備調査を行う予定である。

3. 地元祝島との連携した闘いへの基礎データの収集・集約作業を行う。
4. これまでの成果を一般市民にもわかりやすく編集した書籍を刊行する。

ビデオ・パネル写真に続く広範な普及活動に活用できる書籍の刊行を準備中である。

高木基金へのご意見

詳細調査のダメージを検証し、上関原発計画を中止させる最終目標までには、今後も継続した調査研究活動が必要である。長島の自然を守る会が地元祝島との連携したあらたな闘いの局面を切り開くまでに至ったのは、ひとえに高木基金の支援の賜物である。一方、高木基金は広く市民科学者を支援するためのものであるという本旨を会として認識しており、できるだけ自立を図るべく、2007年度は、イベントや普及活動をより広く展開する財政基盤としてパタゴニア基金に助成申請をし、助成を受けることができた。

しかし、2007年度の調査研究課題は、中国電力が詳細調査の遅れを取り戻すため、なりふり構わず詳細調査を強行しようとしており、環境破壊の危機が深刻さを増していること 祝島との連携した闘いという新たな局面を迎え、より専門性・緊急性を要すること 埋め立て立地許可申請という最悪の事態も予測した予備調査など、より広範囲な基礎データの蓄積が必要であることが明白であり、長島の自然を守る会として、今後も支援を期待せざるを得ない状況である。